

第8回 SSR

日付：2019年1月21日

参加者：越後、市川、佐藤、池田、中川（関根）、袴田、五島先生、倉科

書記：倉科

① 6月の勉強会に向けて

6/15

担当者：主 副

主要メンバーは越後さん、佐藤さんを抜いて選抜

市川さん主導で、助川一派（助川クリニック）、袴田さん

栗原さん、倉科

内容：SSR 立ち上げた理由→今までの報告→普及活動報告、

食姿勢マニュアル化報告、その他→

② 食姿勢を新宿へ普及させるために

・「食姿勢を普及させる」とは？ Who、How

誰に「普及、広める」を明確に

意見

・CM から食事姿勢を改善して欲しいという問い合わせがほとんどない

- ・身体機能への注目部分を中心となっている
- ・ヘルパーが食事の介助をしている場合が多い→ヘルパーにも大切さを伝える
- ・CMが食事場面をみる場合が少ない、食事介助する人（家族、ヘルパー）
- ・姿勢への着目をつけてもらう→専門職以外への普及（家族
- ・むせ、食べられなくなってからなど何か問題が起きてから対策をとる場合が多い、
- ・本人が諦めてしまっている、食べるので精一杯、楽しみの時間ではなくなっている
- ・CM：食事の場面はSTが第一選択になってる（食事＝ST）
- ・家族から食事形態の相談（入れ歯など）
- ・誰にでもわかるチラシ（言葉、イラストなど）
- ・ヘルパー向けに啓蒙活動→家族向け
- ・食事姿勢を写真にした冊子を作成したことはある
- ・メンバー以外のセラピストが対応できるかどうか
 - 出来るなら普及していけるが、一部敬遠しているセラピストも…
- ・同業者（セラピスト）向けの教育→気づかない？気づいていない？

セラピストのチェックリスト

- ・相談者からセラピストへ相談の投げ方
- ・相談員さんへ相談が来ているのでは？（デイなどの）、紹介できる体制も
- ・食支援マイスター（セラピスト）などの呼称を付ける
- ・姿勢が崩れているという認識がない場合も（崩れていると感じていない）

・直すため→同業者向け

見つける為→他職種、家族、一般向け

・食事→元気になる一番のものなのに疎かにしがち（睡眠、食事、運動）

・老健：食事をとる場面をみる機会がある→なぜむせるのかが気づける

まとめ

I.家族、ヘルパー、相談員など姿勢の崩れ（むせなど含む）を見てセラピストへトリ

ック出来るよう→

チラシを作ってみよう(アプローチ先により変える)、わかり易く、端的に

姿勢崩れ（パターンの絵をいくつか）→姿勢に伴うコメント3種類くらい

II. 姿勢がすでに崩れている→食形態を変えるだけで終わっている場合が多い

→相談先がセラピストへ来るように

III.セラピスト向け教育

③ 食姿勢のマニュアル化へ向けて

・食姿勢のパターン分析（袴田さん）

矢状面：2パターン 屈曲、伸展

屈曲→食道、胃など消化器系の圧迫

伸展→頭頸部の伸展

次回

食姿勢の普及へ向けて

- ・袴田さん：写真から選別してもらう
- ・参加者全員：コメントを選定、考えて来る
- ・山上さんへ絵コンテ依頼に向けてまとめられるように

マニュアル化へ向けて

- ・栗原さんが作成したパワーポイントで姿勢分析ができるものを共有
- ・ランドマークをつけた姿勢を持ち寄る
- ・不明点あれば栗原さんに写真を投げかける？